

—ONWARD—

2024年2月期（2023年度）第3四半期
決算説明資料



2024年1月11日

株式会社 オンワードホールディングス

まずこの場をお借りして、2024年1月1日に発生しました令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、本日は当社グループの第3四半期決算の内容につきまして、決算説明資料を用いてご説明をさせていただきます。

決算説明資料の5ページをご覧ください。

オンワードグループのミッションステートメント

ホ シ

ヒトと地球に潤いと彩りを



01	連結実績および連結業績予想ハイライト	4
02	2023年度 3 Q 連結実績	8
03	2023年度通期 連結業績予想	11
04	財務状況	14
05	TOPICS	17
06	補足資料	22



動く。すべての人に、機能美を。

UNF/LO

23 AUTUMN & WINTER

Copyright © UNF/LO HOLDINGS CO., LTD.

4

01

連結実績および連結業績予想
ハイライト

2023年度 3Q 連結実績ハイライト

ONWARD

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
3Q期間 (9-11月)	510 億円 〔前年同期比 +5.7% +27億円〕	47 億円 〔前年同期比 +13.5% +6億円〕	46 億円 〔前年同期比 +14.8% +6億円〕	29 億円 〔前年同期比 +28.3% +6億円〕
3Q累計 (3-11月)	1,414 億円 〔前年同期比 +8.4% +110億円〕	97 億円 〔前年同期比 2.2倍 +54億円〕	91 億円 〔前年同期比 1.9倍 +44億円〕	57 億円 〔前年同期比 2.1倍 +30億円〕

- 当第3四半期期間(9-11月)においては、例年に比べて気温が高めに推移し、お客様の購買行動にも相当な変化がみられた。こうした状況に対応して柔軟な商品マーチャンダイジングを展開できたことや、「クリック&トライ」サービスを導入したOMOストアの運営力が一層向上したことなどから、23区、UNFILO、ペットパラダイス、チャコットなどの主力ブランド事業の販売が引き続き好調だった。
- また、グローバル事業構造改革の成果や商品サプライチェーン効率化の進捗などにより、当第3四半期期間の営業利益率は、前期と比べて0.7%上昇した(8.5%→9.2%)。
- このため当第3四半期期間においては、増収および全段階利益での増益を実現できた。以上の結果、第3四半期累計期間(3-11月)においては、増収および全段階利益での大幅増益を達成した。

こちらに連結実績ハイライトとして、第3四半期連結決算の概要を記載しております。表の上段が第3四半期期間、下段が第3四半期累計期間の実績です。第3四半期期間の連結実績は、売上高は前年同期比5.7%増、金額にして27億円増の510億円となりました。営業利益は13.5%増、6億円増の47億円。経常利益は14.8%増、6億円増の46億円。当期純利益は28.3%増、6億円増の29億円となりました。

当第3四半期期間の9月から11月にかけて、例年と比較して気温が高めに推移し、お客さまの購買行動にも相当な変化が見られました。それに対して柔軟な商品展開ができたことや、上期に引き続きオンワード樫山のOMOサービスの利用が拡大し、運営力が一層向上したこと、主力ブランド、新規ブランドが好調に推移したことなどにより増収となり、全ての段階利益において増益を実現しました。その結果、当第3四半期累計期間につきましては、売上高は前年同期比8.4%増、金額にして110億円増の1,414億円。営業利益は2.2倍、54億円増の97億円。経常利益は1.9倍、44億円増の91億円。当期純利益は2.1倍、30億円増の57億円となりました。

2023年度通期 連結業績予想ハイライト



売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
1,892億円	110億円	100億円	59億円
〔前期比 +7.5% +131億円〕	〔前期比 2.1倍 +58億円〕	〔前期比 1.9倍 +47億円〕	〔前期比 1.9倍 +29億円〕

- 通期の売上高、営業利益、経常利益の予想については、第3四半期累計期間の業績が想定通りに進捗していることから、直近の予想を据え置く。
- 通期の当期純利益の予想については、好調な業績が継続することによる将来課税所得の増加が見込まれるため、繰延税金資産の計上に伴い税金費用が減少することから、直近の予想(55億円)を59億円に上方修正する。

6ページは、通期の業績予想です。当第3四半期累計期間の業績が想定どおりに進捗していることから、売上高、営業利益、経常利益の予想につきましては、昨年10月に発表しました直近予想を据え置かせていただきます。当期純利益につきましては、好調な業績が継続することで将来課税所得の増加が見込まれ、繰延税金資産の計上に伴い税金費用が減少することにより、直近予想の55億円から59億円に上方修正いたします。

■ 配当方針

株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけ、配当性向の目安を35%以上とし、安定的で業績に連動した適正な利益配分を実施。

2023年度の期末配当（2024年5月予定）は、当期純利益の通期予想を再度上方修正したことに伴い、直近（2023年10月公表）の予想から1円増配の、1株当たり18円を予想。
（2022年度の12円からは6円の増配）

■ 配当の状況

	2023年度				2022年度
	今回予想	直近予想 (2023年10月)	2023年7月 時点の予想	期初予想	
1株あたり配当金	18円	17円	16円	14円	12円
配当金総額（百万円）	2,443	2,307	2,171	1,900	1,628
当期純利益（百万円）	5,911	5,462	5,000	4,000	3,061
配当性向	41.3%	42.2%	43.4%	47.5%	53.2%

7ページをご覧ください。業績予想の修正を踏まえ、2023年度期末配当につきましても、直近予想の17円から1円増配の18円に上方修正いたします。期初予想からは4円の増配となります。なお、これにより配当性向は41.3%となる予想です。



02

2023年度 3 Q 連結実績

2023年度 3 Q 連結実績



- 売上高は、3 Q期間で前年同期比+5.7%、3 Q累計で+8.4%。
- 営業利益は、3 Q期間で前年同期比+13.5%、3 Q累計で2.2倍。
- 当期純利益は、3 Q期間で前年同期比+28.3%、3 Q累計で2.1倍。
- EBITDAは、3 Q期間で前年同期比+9.0%、3 Q累計で1.6倍。

(百万円)		3 Q期間実績				3 Q累計実績			
		2023年度	2022年度	増減額	増減率	2023年度	2022年度	増減額	増減率
1	売上高	50,972	48,231	+2,741	+5.7%	141,383	130,397	+10,986	+8.4%
2	売上総利益	29,122	27,890	+1,232	+4.4%	80,274	72,625	+7,649	+10.5%
	(対売上高比率)	(57.1%)	(57.8%)		(△ 0.7%)	(56.8%)	(55.7%)		(+1.1%)
3	販管費	24,444	23,768	+676	+2.8%	70,574	68,310	+2,264	+3.3%
	(対売上高比率)	(48.0%)	(49.3%)		(△ 1.3%)	(49.9%)	(52.4%)		(△ 2.5%)
4	営業利益	4,678	4,122	+556	+13.5%	9,700	4,315	+5,385	+124.8%
	(対売上高比率)	(9.2%)	(8.5%)		(+0.7%)	(6.9%)	(3.3%)		(+3.6%)
5	経常利益	4,643	4,044	+599	+14.8%	9,055	4,698	+4,357	+92.7%
	(対売上高比率)	(9.1%)	(8.4%)		(+0.7%)	(6.4%)	(3.6%)		(+2.8%)
6	当期純利益	2,884	2,247	+637	+28.3%	5,746	2,723	+3,023	+111.0%
	(対売上高比率)	(5.7%)	(4.7%)		(+1.0%)	(4.1%)	(2.1%)		(+2.0%)
7	EBITDA※	5,892	5,406	+486	+9.0%	13,282	8,244	+5,038	+61.1%
	(対売上高比率)	(11.6%)	(11.2%)		(+0.4%)	(9.4%)	(6.3%)		(+3.1%)

※ EBITDA (営業利益+減価償却費およびのれん償却費)

Copyright © ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

9ページは、連結合計での第3四半期期間と第3四半期累計期間のPLの詳細です。冒頭のハイライトで述べましたとおり、第3四半期期間実績、累計実績ともに増収増益となりました。

既にご説明した内容と重複する部分もございますが、右側のオレンジで囲った累計期間の実績についてご説明をさせていただきます。左側の項目番号1番の売上高は、前年同期比8.4%増の1,414億円、前年同期から110億円増加となりました。2番の売上総利益は、前年同期比10.5%増の803億円となりました。グローバル事業構造改革の成果や、商品サプライチェーンの効率化などにより、売上総利益率は前年同期から1.1ポイント改善し、56.8%に上昇いたしました。3番の販管費は、売上高比率2.5ポイント改善の706億円、金額は前年同期比3.3%増となりましたが、販売促進のための広告宣伝費と売上連動の賃借料などによるもので、減価償却費などの固定費は不採算店舗撤退などにより圧縮し、適切にコントロールできております。その結果として4番の営業利益は、前年同期比2.2倍の97億円となり、営業利益率も3.6ポイントの改善となりました。5番の経常利益は、為替差損4億円などの営業外損益を反映させ、前年同期比1.9倍の91億円。6番の当期純利益は、特別損益と法人税等を反映させ、前年同期比2.1倍の57億円となりました。7番のEBITDAは、前年同期比1.6倍の133億円となりました。

2023年度 3 Q セグメント別実績



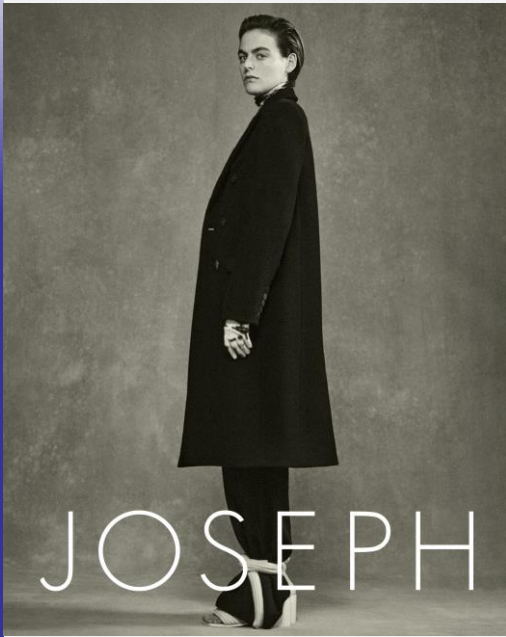
- 国内については、アパレルセグメント、ライフスタイルセグメントともに 3 Q 累計で増収増益。国内アパレルは 3 Q 期間においても増収、2 桁増益と健闘。
- 海外については、3 Q 期間、3 Q 累計ともに増収、損失が残るものの営業損益は 3 Q 期間で1億円、3 Q 累計で6億円の改善。

(百万円)			3 Q 期間実績				3 Q 累計実績			
			2023年度	2022年度	増減額	増減率	2023年度	2022年度	増減額	増減率
1	アパレル	売上高	38,030	36,247	+1,783	+4.9%	103,939	95,951	+7,988	+8.3%
		営業利益	4,035	3,583	+452	+12.6%	8,003	4,067	+3,936	+96.8%
2	ライフスタイル	売上高	9,736	9,497	+239	+2.5%	30,138	28,652	+1,486	+5.2%
		営業利益	987	951	+36	+3.8%	3,009	2,435	+574	+23.6%
3	国内合計	売上高	47,766	45,744	+2,022	+4.4%	134,077	124,603	+9,474	+7.6%
		営業利益	5,022	4,534	+488	+10.8%	11,012	6,502	+4,510	+69.4%
4	海外合計	売上高	5,628	4,701	+927	+19.7%	14,630	12,434	+2,196	+17.7%
		営業利益	△ 31	△ 143	+112	↗	△ 671	△ 1,275	+604	↗
5	連結合計	売上高	50,972	48,231	+2,741	+5.7%	141,383	130,397	+10,986	+8.4%
		営業利益	4,678	4,122	+556	+13.5%	9,700	4,315	+5,385	+124.8%

※グループの内訳は単純合算 連結合計には相殺消去含む

10ページはセグメント別の実績です。表の左側が第3四半期期間、右側が第3四半期累計期間です。右側のオレンジで囲った累計期間の数値を説明させていただきます。国内は、項目番号1番のアパレルセグメント、2番のライフスタイルセグメントともに増収となりました。営業利益は、アパレルセグメントが前年同期比約2倍、ライフスタイルセグメントも23.6%増と、大幅な増益を達成いたしました。4番の海外は前年同期比17.7%の増収となり、赤字は残るものの、営業損益は6億円の改善となりました。

主要な会社別の実績は、28ページをご参照ください。



03

2023年度通期 連結業績予想

2023年度通期 連結業績予想



- 通期の業績予想は、税金費用の減少に伴い当期純利益を59億円に上方修正。
- 売上高、営業利益、経常利益は、3Q累計の業績が想定通りに進捗していることから、直近の予想を据え置く。
- 売上高は、前期から131億円増加の1,892億円（+7.5%）、営業利益は同58億円増加の110億円（2.1倍）、当期純利益は同29億円増加の59億円（1.9倍）を予想。

(百万円)		通期予想					
		2023年度	2022年度	増減額	増減率	前回予想	増減額
1	売上高	189,211	176,072	+13,139	+7.5%	189,211	+0
2	売上総利益	105,952	96,751	+9,201	+9.5%	105,952	+0
	(対売上高比率)	(56.0%)	(54.9%)		(+1.1%)	(56.0%)	0.0%
3	販管費	94,930	91,537	+3,393	+3.7%	94,930	+0
	(対売上高比率)	(50.2%)	(52.0%)		(△ 1.8%)	(50.2%)	(+0.0%)
4	営業利益	11,022	5,214	+5,808	+111.4%	11,022	+0
	(対売上高比率)	(5.8%)	(3.0%)		(+2.8%)	(5.8%)	(+0.0%)
5	経常利益	10,012	5,319	+4,693	+88.2%	10,012	+0
	(対売上高比率)	(5.3%)	(3.0%)		(+2.3%)	(5.3%)	(+0.0%)
6	当期純利益	5,911	3,061	+2,850	+93.1%	5,462	+449
	(対売上高比率)	(3.1%)	(1.7%)		(+1.4%)	(2.9%)	(+0.2%)
7	EBITDA※	16,100	10,373	+5,727	+55.2%	16,100	+0
	(対売上高比率)	(8.5%)	(5.9%)		(+2.6%)	(8.5%)	0

※ EBITDA（営業利益+減価償却費およびのれん償却費）

続きまして、12ページをご覧ください。6ページの連結業績予想ハイライトで述べましたとおり、第3四半期累計実績は想定どおりに進捗し、繰延税金資産の計上によって税金費用が減少することから、6番の当期純利益を、昨年10月公表の数値より4億円増加の59億円に上方修正いたします。

2023年度通期 セグメント別業績予想

ONWARD

- 国内については、アパレルセグメントの売上高が前期比102億円増（+7.8％）、営業利益は48億円増（1.9倍）、ライフスタイルセグメントの売上高は同17億円増（+4.5％）、営業利益は6億円増（+23.1％）の増収増益を予想。
- 海外については、売上高が31億円増（+18.0％）、損失は残るものの、営業損益は8億円の改善を予想。

(百万円)

			通期予想						
			2023年度	2022年度	増減額	増減率	前回予想	増減額	増減率
1	アパレル	売上高	139,692	129,525	+10,167	+7.8%	138,877	+815	+0.6%
		営業利益	9,753	5,000	+4,753	+95.1%	9,421	+332	+3.5%
2	ライフスタイル	売上高	39,633	37,926	+1,707	+4.5%	40,431	△ 798	△ 2.0%
		営業利益	3,374	2,741	+633	+23.1%	3,461	△ 87	△ 2.5%
3	国内合計	売上高	179,325	167,451	+11,874	+7.1%	179,308	+17	+0.0%
		営業利益	13,127	7,741	+5,386	+69.6%	12,882	+245	+1.9%
4	海外合計	売上高	20,348	17,250	+3,098	+18.0%	19,743	+605	+3.1%
		営業利益	△ 315	△ 1,090	+775	↗	△ 407	+92	↗
5	連結合計	売上高	189,211	176,072	+13,139	+7.5%	189,211	+0	+0.0%
		営業利益	11,022	5,214	+5,808	+111.4%	11,022	+0	+0.0%

※グループの内訳は単純合算 連結合計には相殺消去含む

Copyright © ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

13

13ページは、セグメント別の通期予想です。項目番号1番の国内アパレルセグメントは、売上高は前年同期比102億円増、営業利益は48億円増を予想します。2番の国内ライフスタイルセグメントは、売上高は前年同期比17億円増、営業利益は6億円増と、増収増益を予想します。4番の海外は、売上高が31億円増、営業損失は残るものの8億円の損益改善を予想します。

主要な会社別の通期業績予想は、29ページをご参照ください。

続きまして、財務状況についてご説明させていただきます。



04

財務状況

2023年度 3 Q累計 EBITDA/純資産/自己資本比率/流動比率

- EBITDAは、前年同期比50億円増の133億円に拡大。
- 純資産は、少数株主持分の減少により前期末から24億円減少。
- 自己資本比率は、借入金増に伴い低下するものの、約45%を維持。
- 流動比率は、一時的な短期借入金の増加により前期末から8.8%低下。

■ EBITDA

(百万円)

2023年度 3 Q累計	2022年度 3 Q累計	増減	増減率
13,282	8,244	+5,038	+61.1%

■ 自己資本比率

2023年度 3 Q末	2022年度 期末	増減
44.9%	47.0%	△ 2.1%

■ 純資産

(百万円)

2023年度 3 Q末	2022年度 期末	増減	増減率
82,719	85,073	△ 2,354	△ 2.8%

■ 流動比率

2023年度 3 Q末	2022年度 期末	増減
108.4%	117.2%	△ 8.8%

15ページをご覧ください。EBITDAは既に述べましたとおり、前年同期比1.6倍の133億円となりました。純資産は、当期純利益57億円による増加と、少数株主持分の減少や配当金の支払いなどにより、前期末比で24億円減の827億円となりました。自己資本比率は前期末の47.0%から2.1ポイント低下の44.9%となりましたが、適正水準を維持しております。流動比率についても、一時的な短期借入金の増加に伴い低下しておりますが、安全性の目安である100%以上を維持しております。

2023年度 3 Q累計 キャッシュ・フロー/設備投資/減価償却費

■ キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前利益、および棚卸資産の増加などにより4億円の収入。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得などにより35億円の支出。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加および配当金の支払い等により13億円の収入。

■ 設備投資

- 設備投資額は、前年同期から6億円減少の35億円。
- DX関連やOMO関連など投資を厳選し、効率的に実施。

(百万円)			
2023年度 3 Q累計	2022年度 3 Q累計	増減	増減率
3,515	4,091	△ 576	△ 14.1%

■ 減価償却費

- 減価償却費は、前年同期から4億円減少の30億円。

2023年度 3 Q累計	2022年度 3 Q累計	増減	増減率
2,959	3,313	△ 354	△ 10.7%

16ページをご覧ください。営業キャッシュ・フローは、税金等調整前利益の増加によって収入が増える一方、仕入増加に伴う支出も増えた結果、4億円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、資本業務提携を発表した(株)ウィゴー、(株)サンマリノの投資有価証券の取得などにより35億円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加や配当金の支払いなどにより13億円の収入となりました。設備投資は、当第3四半期までに35億円実施いたしました。主な内訳は、DXやOMOに関連する店舗設備、物流設備などに関わる投資、システム投資等です。設備投資については、内容を厳選し、効率的に実施しております。



estèta

05

TOPICS

23区 【オンワード樫山】

- ・ オンワード樫山の基幹ブランド『23区』は、ブランドデビュー30周年を記念したプロモーションにより販促を強化。
- ・ また、お客さまの多様なニーズに応えるため、ハイグレードな派生ブランド『estèta（エステータ）』を新たに展開。
- ・ 当3Q期間においては、軽くて暖かい中間アウターや、ニットを重ねるレイヤードコーディネートなどの提案など、高気温に対応した商品施策が奏功。
- ・ 『estèta』は「上質・高感度戦略」が支持を得、新規顧客を獲得。
- ・ 当3Q期間の売上高は前年同期比12%増、3Q累計期間は同17%増と拡大。



ウールカシミヤ アランパターン カーディガン他



ロングパディングアウター他

3Q期間
(売上高前年同期比) +12.3%

3Q累計期間
(売上高前年同期比) +17.2%

18ページから21ページまでは、主力ブランド事業の動向を記載しております。冒頭のハイライトでも述べましたとおり、『23区』や『UNFILO』を代表とするアパレルブランドにおいては、この第3四半期の高い気温にも、中間アウターの拡充やレイヤードコーディネートの提案など柔軟な商品展開で対応し、好調を継続いたしました。

『23区』はデビュー30周年を記念したプロモーションを強化し、成長を加速しております。また、ハイグレードな派生ブランド『estèta（エステータ）』の展開を始め、上質や高感度を求める新しいお客さまからの支持に手応えを感じております。

UNFILO 【オンワード樫山】

- 「動く。すべての人に、機能美を。」をコンセプトに、2021年にデビューした『UNFILO（アンフィーロ）』は、機能性素材を使用した「最愛ジョグパン」などのヒット商品を創出。
- D2CブランドとしてEコマースでの販売からスタートし、OMOサービス「クリック&トライ」によるリアル店舗への商品の取り寄せや、ブランド複合店舗「オンワード・クローゼットセレクト」での展開により認知度を向上。
- 当3Q期間においては、4種の「WARM BEAUTY PANTS」を代表とする冬の機能美商品と、気温に合わせたレイヤード提案との連動により、実需購買を促進。
- その結果、市場全体が低成長で推移する中、同期間の『UNFILO』の売上高は前年同期比2.1倍と大幅な増収を実現。3Q累計期間では1.9倍に拡大。



3Q期間
(売上高前年同期比)

2.1倍

3Q累計期間
(売上高前年同期比)

1.9倍

『UNFILO』は、2021年のデビュー以来、機能商品を軸に『最愛ジョグパン』などのヒット商品を創出し、拡大を続けております。当第3四半期期間においても、売上高は前年同期から約2倍となりました。

ペットパラダイス 【クリエイティブヨーコ】

- ・ クリエイティブヨーコの主力事業である『PET PARADISE（ペットパラダイス）』は、2022年度下期から積極的に取り組んでいる新規出店施策が奏功。
- ・ 2023年度はインバウンド消費に向けた戦略を強化し、国内外の多くの観光客が訪れるエリアにおいて新規出店を実行。
- ・ 2023年2月末には『PET PARADISE』原宿竹下通り店、9月末には渋谷スペイン坂店をオープンし、販売は非常に好調な推移。12月8日にオープンした鎌倉小町通り店も好調なスタート。いずれもインバウンド売上高が大きく貢献。
- ・ 商品面ではペット用カート「smooCa（スムーカ）」などの新規商品のヒットも増収に貢献。
- ・ 当3Q期間の売上高は前年同期比15%増、3Q累計期間では同19%増と拡大。



PET PARADISE 渋谷スペイン坂店



smooCa ネオコンパクトカート



J.PRESSフェイクレザージャケット

3Q期間
(売上高前年同期比) + 14.8%

3Q累計期間
(売上高前年同期比) + 18.7%

ペット・ホームライフ事業を展開するクリエイティブヨーコの主力事業である『PET PARADISE』は、インバウンド売上の拡大を狙った出店施策を実行し、原宿竹下通り店や渋谷スペイン坂店、鎌倉小町通り店は当初計画を大幅に上回り、好調に推移しております。

チャコット・コスメティクス 【チャコット】

- ・ クラシックバレエのステージメイクとしてプロのアーティストに長年愛用されてきたコスメティクスを、普段使いにも対応したアイテム構成で『Chacott COSMETICS』として2021年に大幅リニューアル。
- ・ 原料には、肌へのやさしさの追求に加え、社会や環境にやさしいサステナビリティに配慮したものを採用。
- ・ 2023年度は新商品のダブルマルチクレヨンやマルチカラーバリエーションの展開、重点取組先へのプロモーション、インフルエンサーを活用したSNS施策などが奏功。
- ・ 当3Q期間の売上高は前年同期比1.5倍、3Q累計期間では同33%増と拡大し、チャコットの業績を牽引。



ダブルマルチクレヨン

マルチカラーバリエーション

3Q期間
(売上高前年同期比)

1.5倍

3Q累計期間
(売上高前年同期比)

+33.1%

クラシックバレエなどのウェルネス事業を展開するチャコットは、ステージメイクとして愛用されてきたコスメティクスを『Chacott COSMETICS』としてリニューアルし、普段使いにも対応したアイテム構成で売上高を拡大しております。当第3四半期期間においては、前年同期から1.5倍に増加いたしました。



06

補足資料

22ページ以降は補足資料としてご提示しておりますので、ご参照ください。

最後に、当第3四半期期間は気温が高く推移し、お客さまの購買行動に変化がございましたが、グループ全体として前年同期比、増収増益で乗り切ることができました。今期末まで残り1カ月半、お示ししている通期の業績予想を確実に達成し、次年度以降のさらなる成長に向かってまいりたいと存じます。

私からのご説明は以上でございます。ありがとうございました。

OMOサービス「クリック＆トライ」

ブランド複合型店舗「オンワード・クローゼットセレクト」

ONWARD

- 「クリック＆トライ」 サービス

 - ・ 導入店舗数は前年同期末から58店舗増加し388店舗。
 - ・ 同サービス導入店舗(既存)の2023年度第3四半期累計期間の売上高はコロナ前の2019年を17%上回り、未導入店舗を25%上回る。
- 「オンワード・クローゼットセレクト」

 - ・ 「クリック＆トライ」と併せ、ブランド複合型店舗「オンワード・クローゼットセレクト（OCS）」の展開を拡大。
 - ・ OMOサービスを実装し、オンワード樫山の複数ブランドを横断的に取り揃え、ご提供。第3四半期累計売上高の前年同期比は、OCSを除く既存店舗を22%上回る。

■ クリック＆トライ導入店舗数・予約件数の推移

	2023年度 3 Q末	2022年度 3 Q末	増減	増減率
店舗数	388	330	+58	-
導入率	56%	42%	+15%	-
予約件数（千件）	96	66	+30	+45%

■ オンワード・クローゼットセレクト売上高比較

	2023年度3 Q累計		
	百貨店流通	SC流通	計
オンワード・クローゼットセレクト（OCS）	125%	148%	131%
OCS除く店舗	112%	102%	109%
差	+13%	+46%	+22%

廃止ブランドを除く対比

■ クリック＆トライ導入店舗・未導入店舗の売上高比較

2019年度対比	2023年度 3 Q累計	2022年度 3 Q累計
導入店舗	117%	100%
未導入店舗	92%	81%
差	+25%	+19%



オンワードクローゼットセレクト イオンモール岡崎店

2023年度 3 Q累計 販路別売上高



- リアル販路（百貨店+SC他）は7%増収。
- ECは8%増収。EC化率は29%、自社EC比率は89%と高水準を維持。

(百万円)	①オンワード壱山			②国内EC対象事業会社8社 [※]			合計 (①+②)		
	売上高	構成比	前年同期比	売上高	構成比	前年同期比	売上高	構成比	前年同期比
百貨店	31,874	39.1%	+6.4%	7,429	19.7%	+5.3%	39,303	33.0%	+6.2%
SC他	27,127	33.3%	+12.3%	17,687	46.8%	+2.7%	44,814	37.6%	+8.3%
リアル販路計	59,001	72.4%	+9.1%	25,116	66.5%	+3.5%	84,117	70.5%	+7.3%
自社EC	20,515	25.2%	+12.6%	10,608	28.1%	+6.3%	31,123	26.1%	+10.4%
自社EC比率		91.2%			83.9%			88.6%	
他社ECモール	1,968	2.4%	△ 22.9%	2,035	5.4%	+6.7%	4,003	3.4%	△ 10.2%
EC計	22,483	27.6%	+8.2%	12,643	33.5%	+6.4%	35,126	29.5%	+7.6%
売上高計	81,484	100.0%	+8.8%	37,759	100.0%	+4.4%	119,243	100.0%	+7.4%

※Eコマースを運営している以下の国内事業会社8社
アイランド、ティアクラッセ、オンワードパソナルスタイル、チャコット、クリエイティブヨーコ、大和、インティメイツ、KOKOBUY

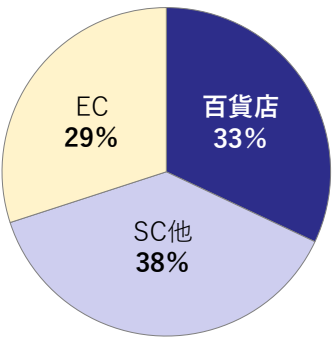
2023年度3Q累計 販路別売上高構成比



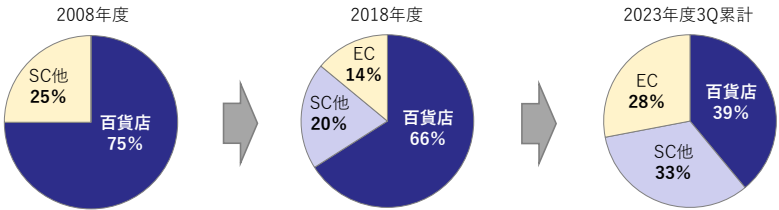
■ オンワードグループ国内9社計

(オンワード樫山、アイランド、ティアクラスセ、オンワードパーソナルスタイル、チャコット、クリエイティブヨーコ、大和、インディメイツ、KOKOBUY)

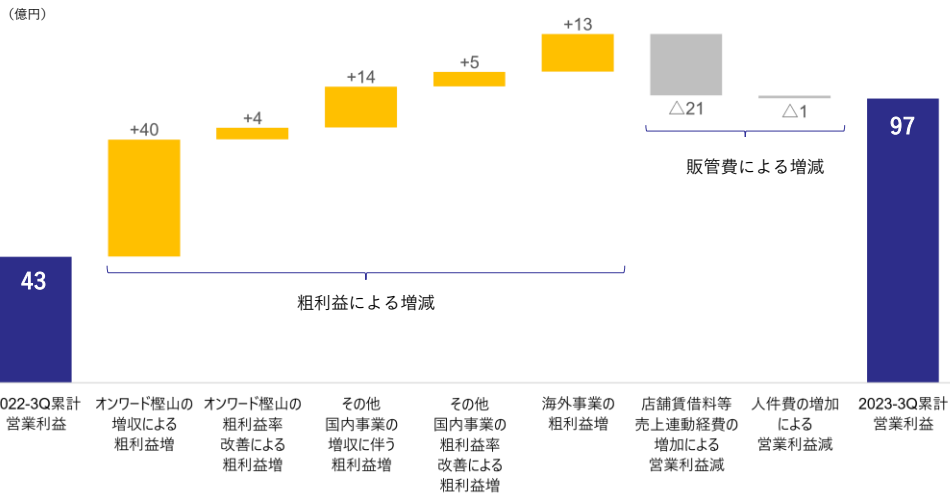
2023年度3Q累計



(参考) オンワード樫山の販路別売上高構成比の推移



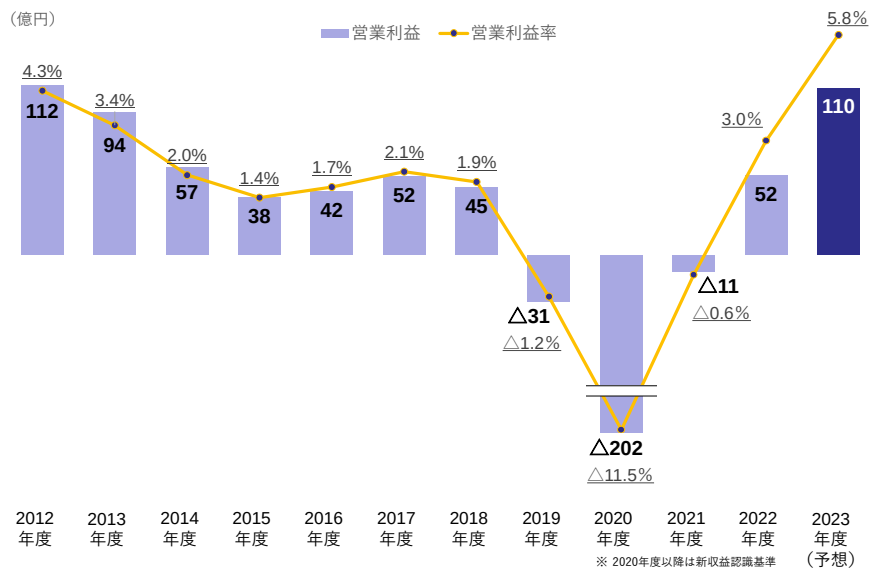
2023年度 3 Q累計 営業利益増減分析（前年同期比）



営業利益および営業利益率の推移

ONWARD

- 2023年度の営業利益は、2012年度以来11期ぶりに100億円を超える見通し。
- 2023年度の営業利益率は、2012年度以降最高の5.8%となる見通し。



2023年度 3 Q 事業会社別実績



(百万円)			3 Q期間				3 Q累計			
			2023年度	2022年度	増減額	増減率	2023年度	2022年度	増減額	増減率
1	オンワード樺山+HD	売上高	29,918	28,815	+1,103	+3.8%	81,484	74,870	+6,614	+8.8%
		営業利益	3,571	3,336	+235	+7.0%	6,781	3,668	+3,113	+84.9%
2	オンワード コーポレートデザイン	売上高	4,464	3,867	+597	+15.4%	11,817	10,732	+1,085	+10.1%
		営業利益	352	203	+149	+73.4%	1,174	726	+448	+61.7%
3	アイランド	売上高	1,544	1,649	△ 105	△ 6.4%	4,388	4,619	△ 231	△ 5.0%
		営業利益	28	120	△ 92	△ 76.7%	5	142	△ 137	△ 96.5%
5	国内アパレル計	売上高	38,030	36,247	+1,783	+4.9%	103,939	95,951	+7,988	+8.3%
		営業利益	4,035	3,583	+452	+12.6%	8,003	4,067	+3,936	+96.8%
6	チャコット	売上高	2,388	2,223	+165	+7.4%	7,447	6,937	+510	+7.4%
		営業利益	219	199	+20	+10.1%	784	541	+243	+44.9%
7	クリエイティブヨーコ	売上高	1,664	1,504	+160	+10.6%	4,633	4,066	+567	+13.9%
		営業利益	221	146	+75	+51.4%	456	254	+202	+79.5%
8	大和	売上高	5,195	5,330	△ 135	△ 2.5%	15,787	15,436	+351	+2.3%
		営業利益	468	495	△ 27	△ 5.5%	1,467	1,198	+269	+22.5%
9	国内ライフスタイル計	売上高	9,736	9,497	+239	+2.5%	30,138	28,652	+1,486	+5.2%
		営業利益	987	951	+36	+3.8%	3,009	2,435	+574	+23.6%
10	国内小計	売上高	47,766	45,744	+2,022	+4.4%	134,077	124,603	+9,474	+7.6%
		営業利益	5,022	4,534	+488	+10.8%	11,012	6,502	+4,510	+69.4%
11	ヨーロッパ計	売上高	3,438	2,720	+718	+26.4%	8,270	6,964	+1,306	+18.8%
		営業利益	126	171	△ 45	△ 26.3%	△ 323	△ 343	+20	↗
12	アメリカ計	売上高	430	465	△ 35	△ 7.5%	1,366	1,224	+142	+11.6%
		営業利益	△ 135	△ 223	+88	↗	△ 366	△ 630	+264	↗
13	アジア計	売上高	1,760	1,516	+244	+16.1%	4,994	4,246	+748	+17.6%
		営業利益	△ 22	△ 91	+69	↗	18	△ 302	+320	↗
14	海外小計	売上高	5,628	4,701	+927	+19.7%	14,630	12,434	+2,196	+17.7%
		営業利益	△ 31	△ 143	+112	↗	△ 671	△ 1,275	+604	↗
15	連結合計	売上高	50,972	48,231	+2,741	+5.7%	141,383	130,397	+10,986	+8.4%
		営業利益	4,678	4,122	+556	+13.5%	9,700	4,315	+5,385	+124.8%

※グループの内訳は単純合算 連結合計には相殺消去含む

2023年度通期 事業会社別業績予想



(百万円)

(百万円)		通期予想							
		2023年度	2022年度(実績)	増減額	増減率	前回予想	増減額	増減率	
1	オンワード樫山+HD	売上高	108,721	101,109	+7,612	+7.5%	107,964	+757	+0.7%
		営業利益	8,180	4,524	+3,656	+80.8%	7,801	+379	+4.9%
2	オンワード	売上高	16,549	14,503	+2,046	+14.1%	16,205	+344	+2.1%
		営業利益	1,513	1,007	+506	+50.2%	1,527	△ 14	△ 0.9%
3	コーポレートデザイン アイランド	売上高	5,966	6,285	△ 319	△ 5.1%	6,235	△ 269	△ 4.3%
		営業利益	67	80	△ 13	△ 16.3%	35	+32	+91.4%
5	国内アパレル計	売上高	139,692	129,525	+10,167	+7.8%	138,877	+815	+0.6%
		営業利益	9,753	5,000	+4,753	+95.1%	9,421	+332	+3.5%
6	チャコット	売上高	9,586	8,849	+737	+8.3%	9,573	+13	+0.1%
		営業利益	654	342	+312	+91.2%	631	+23	+3.6%
7	クリエイティブヨーコ	売上高	6,391	5,801	+590	+10.2%	6,307	+84	+1.3%
		営業利益	649	419	+230	+54.9%	582	+67	+11.5%
8	大和	売上高	20,889	20,629	+260	+1.3%	21,593	△ 704	△ 3.3%
		営業利益	1,729	1,489	+240	+16.1%	1,806	△ 77	△ 4.3%
9	国内ライフスタイル計	売上高	39,633	37,926	+1,707	+4.5%	40,431	△ 798	△ 2.0%
		営業利益	3,374	2,741	+633	+23.1%	3,461	△ 87	△ 2.5%
10	国内小計	売上高	179,325	167,451	+11,874	+7.1%	179,308	+17	+0.0%
		営業利益	13,127	7,741	+5,386	+69.6%	12,882	+245	+1.9%
11	ヨーロッパ計	売上高	11,497	9,960	+1,537	+15.4%	10,965	+532	+4.9%
		営業利益	76	△ 136	+212	↗	69	+7	+10.1%
12	アメリカ計	売上高	2,036	1,636	+400	+24.4%	1,966	+70	+3.6%
		営業利益	△ 321	△ 576	+255	↗	△ 416	+95	↗
13	アジア計	売上高	6,815	5,654	+1,161	+20.5%	6,812	+3	+0.0%
		営業利益	△ 70	△ 378	+308	↗	△ 60	△ 10	↘
14	海外小計	売上高	20,348	17,250	+3,098	+18.0%	19,743	+605	+3.1%
		営業利益	△ 315	△ 1,090	+775	↗	△ 407	+92	↗
15	連結合計	売上高	189,211	176,072	+13,139	+7.5%	189,211	+0	+0.0%
		営業利益	11,022	5,214	+5,808	+111.4%	11,022	+0	+0.0%

※グループの内訳は単純合算 連結合計には相殺消去含む。
※オンワードコーポレートデザインの前年値および前回予想（下期）には、旧オンワード商事に加え、旧オンワードクリエイティブセンターの数値を含む。

2023年度 3 Q累計 連結販管費 / 当期純利益影響項目

(百万円)	2023年度 3 Q累計	2022年度 3 Q累計	増減率
1 人件費	26,633	26,334	+1.1%
2 賃借料	19,070	18,437	+3.4%
3 運賃運搬費	4,826	4,647	+3.9%
4 広告宣伝費	4,817	3,963	+21.5%
5 減価償却費	2,367	2,754	△ 14.1%
6 その他	12,861	12,175	+5.6%
7 販管費計	70,574	68,310	+3.3%

【当期純利益影響項目】

- 受取利息・受取配当金等による営業外収益4億円
- 為替差損、支払利息等により営業外費用は10億円
- 投資有価証券売却等による特別利益4億円
- 減損損失等による特別損失6億円
- 法人税等は、業績向上により将来課税所得の増加が見込まれ、繰延税金資産の計上に伴い、税負担率が低下。
- 以上の結果、当期純利益は57億円となった。

(百万円)	2023年度 3 Q累計	2022年度 3 Q累計	増減率
8 営業利益	9,700	4,315	+124.8%
9 営業外収益	388	1,255	△ 69.1%
10 受取利息・配当金	169	127	+33.1%
11 為替差益		788	-
12 助成金収入		133	-
13 その他	218	205	+6.3%
14 営業外費用	1,033	873	+18.3%
15 支払利息	392	234	+67.5%
16 為替差損	380		-
17 持分法による投資損失		42	-
18 その他	259	595	△ 56.5%
19 営業外損益計	△ 645	382	-
20 経常利益	9,055	4,698	+92.7%
21 特別利益	415	1,456	△ 71.5%
22 関係会社株式売却益		1,303	-
23 その他	415	153	+171.2%
24 特別損失	598	880	△ 32.0%
25 減損損失	362	723	△ 49.9%
26 その他	236	157	+50.3%
27 特別損益	△ 183	576	-
28 税前利益	8,872	5,273	+68.3%
29 法人税等	2,920	2,621	+11.4%
30 少数株主損益	205	△ 71	-
31 当期純利益	5,746	2,723	+111.0%

Copyright © ONWARD HOLDINGS CO., LTD.

30

2023年度累計 連結貸借対照表



(億円)		2023年度 3 Q末	2022年度末	前期末比±	増減要因
1	資産合計	1,728	1,591	+137	
2	流動資産	767	622	+145	
3	現金及び預金	126	138	△ 12	
4	売掛金	191	139	+52	
5	棚卸資産	408	307	+101	積極的な仕入による増加
6	固定資産	961	969	△ 8	
7	有形固定資産	541	531	+10	
8	無形固定資産	90	91	△ 1	
9	投資その他の資産	329	347	△ 18	
10	負債合計	901	741	+160	借入金増加に伴う
11	買掛金	250	214	+36	
12	借入金	384	272	+112	新規借り入れ
13	その他	267	255	+12	
14	純資産合計	827	850	△ 23	
15	自己資本比率	44.9%	47.0%	△ 2.1%	
16	流動比率	108.4%	117.2%	△ 8.8%	

2023年度 グループ別 3 Q期間・累計実績



(百万円)		3Q期間実績				3Q累計実績				
		2023年度	2022年度	増減額	増減率	2023年度	2022年度	増減額	増減率	
オンワード +HD 樫山	1	売上高	29,918	28,815	+1,103	+3.8%	81,484	74,870	+6,614	+8.8%
	2	売上総利益 (売上比)	18,605 (62.2%)	18,177 (63.1%)	+428	+2.4% (△ 0.9%)	49,850 (61.2%)	45,335 (60.6%)	+4,515	+10.0% (+0.6%)
	3	販管費 (売上比)	15,034 (50.3%)	14,841 (51.5%)	+193	+1.3% (△ 1.2%)	43,069 (52.9%)	41,667 (55.7%)	+1,402	+3.4% (△ 2.8%)
	4	営業利益 (売上比)	3,571 (11.9%)	3,336 (11.6%)	+235	+7.0% (+0.3%)	6,781 (8.3%)	3,668 (4.9%)	+3,113	+84.9% (+3.4%)
国内小計 (オンワード+HD+HDH)	5	売上高	17,848	16,929	+919	+5.4%	52,593	49,733	+2,860	+5.8%
	6	売上総利益 (売上比)	8,948 (50.1%)	8,490 (50.2%)	+458	+5.4% (△ 0.1%)	26,574 (50.5%)	24,646 (49.6%)	+1,928	+7.8% (+0.9%)
	7	販管費 (売上比)	7,497 (42.0%)	7,292 (43.1%)	+205	+2.8% (△ 1.1%)	22,343 (42.5%)	21,812 (43.9%)	+531	+2.4% (△ 1.4%)
	8	営業利益 (売上比)	1,451 (8.1%)	1,198 (7.1%)	+253	+21.1% (+1.0%)	4,231 (8.0%)	2,834 (5.7%)	+1,397	+49.3% (+2.3%)
海外小計	9	売上高	5,628	4,701	+927	+19.7%	14,630	12,434	+2,196	+17.7%
	10	売上総利益 (売上比)	2,467 (43.8%)	2,016 (42.9%)	+451	+22.4% (+0.9%)	6,514 (44.5%)	5,177 (41.6%)	+1,337	+25.8% (+2.9%)
	11	販管費 (売上比)	2,498 (44.4%)	2,159 (45.9%)	+339	+15.7% (△ 1.5%)	7,185 (49.1%)	6,452 (51.9%)	+733	+11.4% (△ 2.8%)
	12	営業利益 (売上比)	△ 31 -	△ 143 -	+112	↗	△ 671 -	△ 1,275 -	+604	↗

2023年度 グループ別通期予想



		(百万円)	通期予想			
			2023年度	2022年度	増減額	増減率
オン ワ ー ド 株 山	1	売上高	108,721	101,109	+7,612	+7.5%
	2	売上総利益	65,584	60,068	+5,516	+9.2%
		(売上比)	(60.3%)	(59.4%)		(+0.9%)
	3	販管費	57,404	55,544	+1,860	+3.3%
		(売上比)	(52.8%)	(54.9%)		(△ 2.1%)
	4	営業利益	8,180	4,524	+3,656	+80.8%
		(売上比)	(7.5%)	(4.5%)		(+3.0%)
国 内 小 計	5	売上高	70,604	66,342	+4,262	+6.4%
	6	売上総利益	35,093	32,516	+2,577	+7.9%
		(売上比)	(49.7%)	(49.0%)		(+0.7%)
	7	販管費	30,146	29,299	+847	+2.9%
		(売上比)	(42.7%)	(44.2%)		(△ 1.5%)
	8	営業利益	4,947	3,217	+1,730	+53.8%
		(売上比)	(7.0%)	(4.8%)		(+2.2%)
海 外 小 計	9	売上高	20,348	17,250	+3,098	+18.0%
	10	売上総利益	9,501	7,552	+1,949	+25.8%
		(売上比)	(46.7%)	(43.8%)		(+2.9%)
	11	販管費	9,816	8,642	+1,174	+13.6%
		(売上比)	(48.2%)	(50.1%)		(△ 1.9%)
	12	営業利益	△ 315	△ 1,090	+775	↗
		(売上比)	-	-		

■財務方針と目標財務指標の考え方

- ・持続的な企業価値の向上にむけ、資本コストを上回るリターン（利益）の実現を目指す。
- ・株主資本コストおよび加重平均資本コスト（WACC）を意識しつつ、自己資本利益率（ROE）等の目標値を設定する。
- ・目標値の実現に向けた具体策（キャッシュアロケーション等）を明示する。

上記については、2023年度通期決算発表時（2024年4月）に公表を予定。

「ONWARD VISION 2030」のアップデート版、および中期3カ年経営計画と併せて開示予定。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。
この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は
一切責任を負いませんのでご承知おきください。